

# ふかまちのまじ

第一号 三年の八月一日  
発行元 深町町内会連合会  
連絡所 六三三三八八二

## 町内会連合会活動報告

一、役員会(七月十三日)  
やっさ祭へ昨年同様、サンライズ大池・山田脳神経外科と合同チームで出場を決定した。町内会から参加者を募集する。

盆行事は、昨年の太鼓おどり、花火、盆踊り、ビンゴゲームに加えて獅子舞の実施を決定。

市青少年育成会議の地域指定(二年間)を受け、補助金五万円受領を報告。  
なお、会議終了後盆踊りの練習を実施した。

二、如水館お祝いパネル設置  
「祝全国大会出場・深町町内会連合会」のパネルを常設し、このたび全国大会の出場権を得た陸上部とチアリーディング部のパネルも掲揚した。今後、全国大会に出場する部の名を順次掲揚する。

三、公害関係提言  
執行部と行政経験者で検討。  
○ゴミの焼却は、控えましょう。特にビニール、プラスチック、油類は厳に慎みましょう。  
○農林関係や風俗習慣上焼却が許されるものも、煙の少ない方法としましょう。  
○公害・環境に関心をもちましょう。(事務局) ▲▲



## 深小だより

春の遠足で城山に登りました。城山から見える山並を見て、「古の昔から、三原・尾道に通じる大切な街道であったこと、人々は幾年もの間くらしをバトンされて今日があるんだなあ。」などの思いが浮かんできました。

昨年まで、三原・尾道線を車で走っていて思っていたことは、「子どもが横断します。」等々の手作り看板を見て、「子ども達を地域で見守り育てておられる深町だなあ。」ということです。

## 女性会だより

深町女性会  
会長 沖西 サカエ

## 女性会七月活動報告

- ◆役員会 十九名出席 一日
- ◆小物作り講習 十三名参加 十四日
- ◆JA女性部 南部地区大会 並びに家の光大会 十五日 七名参加
- ◆サンライズ大池夏祭り協力 ボランティアを含め十六名協力 十九日
- ◆町内クリーニング実施 二十日 参加者：小学生、保護者、女性会会員による世代交流事業活動として行い沢山の方々の参加ご協力を頂きました。



## 如水館 チアリーディング部 全国大会へ

ジャパンカップ 二〇〇三チアリーディング日本選手権大会が八月二二～二四日の間、国立代々木競技場で開催される。全国でもトップクラスにある如水館の演技に好成績が期待される。

今年から深小に勤務させてもらって、運動会の様子、いろいろな場でのふれあい等にあつて、思っていた通り、地域の皆様、保護者の皆様、みんなでの子ども大切にはぐくみ育てようとされている思いを深く感じています。  
「小学校、楽しいよ。もつともっと勉強したいな。」と子ども達の声が開こえるようにがんばっていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

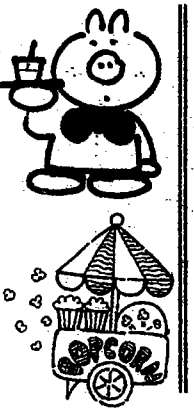
深小学校二年担任 川上 真由美

## 投稿歓迎

八百字以内でお願いします。(六百字程度が適当)  
原則として実名で掲載します。匿名を特に希望される場合は、その旨を編集室(紙谷)へご連絡ください。  
原稿の締切 毎月二十日(できれば十五日までに)提出いただければ有難いです。  
紙面の都合等により掲載が遅れることがあります。  
明るい話、元気が出る話、とっておきの話など(他人を誹謗中傷するもの、政治色・宗教色の強いものや社会通念上、不適切なもの等は除く)お気軽にお寄せください。



\*連絡先  
「ふかまちのまじ」  
編集室 紙谷 謹一  
深町(上組) 甲459-3  
電話 63-3882



## サンライズ大池 夏祭り

平成十五年度、サンライズ大池の夏祭りは、七月十九日(土)に開催された。  
昨年以上の盛況で、約四百名の参加者を数え、三原市以外の方も多かった。  
サンライズ大池職員と、ボランティアの深町女性会・壮年会・如水館インターアクトクラブの生徒さんとの連携もよく、祭りはスムーズに進行。  
施設と地域の「ふれあい」を深めるための祭りは、有意義に終了した。

## 「あこがれ」

民生委員・児童委員として長年精力的に活躍されていた平岡功一さんが辞任され、その後任として、このたび民生委員・児童委員に就任することになりました。  
微力ではございますが、民生委員・児童委員としての務めを果たしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。  
紙谷 謹一

今年三月末を以って民生委員・児童委員を辞任させて頂きました。  
民生委員・児童委員在任中は、町内の皆様、各関係者の皆様にはいろいろと暖かいご指導とご鞭撻を賜り誠にありがとうございました。  
心より感謝し厚くお礼申し上げます。  
なお、今後ともよろしくお願ひします。  
平岡 功一

## 深町各種団体八月行事予定

- ◆町内会連合会
- ▼役員体育委員会会議 二日
- ▼盆踊り練習 三日
- ▼深小体育館一九三〇、同右 七日
- ▼やっさ祭出場 九日
- ▼盆行事 十五日
- ▼体育委員会 下旬
- ◆小学校・幼稚園
- ▼盆踊り練習 三日
- ▼全校登校日・登園日 五日
- ▼盆踊り練習 七日
- ▼世代交流事業 深町盆踊り 十五日
- ▼PTA環境整備作業 三十一日
- ◆女性会
- ▼懇親会 上 第三水曜 中 第一月曜 下 第二日曜



## 展望席

八月十五日は終戦記念日。「現在の松尾峠バス停付近の小さな広場で、出征兵士を母の背中から見送ったこと」上組の山中に焼夷弾が投下され、大きな山火事になったこと。その焼夷弾の残骸を父が拾って持ち帰ったこと「福山空襲の夜、東の空が真っ赤だったこと」「夜間明かりが外に漏れないようにしたこと(灯火管制)」などなど。太平洋戦争当時で、二・三才頃の私の記憶の中には、戦争に関することしか残っていません。  
当時、楽しく感動するようなことは何もなかったのか。それとも感動するようなことがあつても、戦争というショッキングな出来事によってその感動が打ち消されたのか。戦争は子供心にも極めて大きな出来事であつたに違いない。  
イラク戦争が一応終結したことにより、イラクの戦後復興に向けて世界が動き始めた。日本も色々な問題を抱えながら支援に動いている。また、パレスチナ・イスラエルも新和平案の即時履行開始で合意し、紛争終結へわずかな光が見えてきた。  
しかし、戦争が終結し、その国が復興しても、大人の責任で起こされた戦争で、何も知らないまま戦争に巻き込まれた幼い子ども達も受けたであろう大きな心の傷は、生涯癒されることのあるのだろうか。幼い子供達の純真で澄んで輝くつぶらな瞳をじっと見つめるとき、ただただ、戦争のない平和な世界の実現を祈るばかりです。  
「すべての戦争は人の心から生まれる、すべての平和も人の心から生まれる」(国連ユネスコ憲章)

# 深小時代の思い出(8)

元深小学校長 坂井吉徳

## 「村芝居」の巻

昭和三十五年、三中に転動するまでに一度だけ、青年団の村芝居に出会いました。

青年団の芝居といっても、小屋作りにお茶のサービスなど、町の役員を始め今は最高齢者の一員になっておられる、高崎・成末・久保さん達が先頭に立って世話をされていたのを憶えています。

当時の青年団長は小林さんだったと思うのですが、とにかく朝の一時や二時はめずらしくなくいくらい熱心に練習されていました。

芝居の開幕の前夜のことです。十二時過ぎた頃、「先生！」と起こされました。「お腹が空いて練習にならないのじゃが、何か食べる物はないかのー」というのです。

今のように、インスタントラーメン等がない時代ですから、「ないですよ」と言うと、「何かないかのー」と再び声がするのです。

## 感謝

深町雀

今年の春も多くの方が若者達が学窓を出て就職し、初月給を手にしたことだろう。

この初月給についてある青年の話を伝えた。この青年は自分の手で稼いだ初めての収入を手にする、それを親の前に差し出して、長年育ててくれたことを感謝してお礼を言ったのである。

近頃の若者達はかく自分本位と言われているが、このように立派にけじめをつけることもやっているのだと感心した。

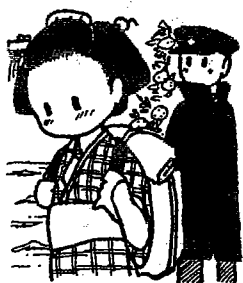
お礼を言われた親としても、長年の子育ての苦労が、このことで一度に報われた気持ちで非常に喜ばれたとのことである。



しかもこの青年は、若年のころから障害をもち動作に不自由を伴っていたようである。それなら親としても人一倍の世話が必要で有ったろうし苦勞の程が偲ばれることである。

青年自信も我が身の不幸を幾度嘆いたことか。自暴自棄にも走りやす直に育つたことは家族の愛情と周囲の励ましに支えられた点も大きいと思われる。

電氣をつけてみると、梶谷さんとその友達でいた。私は、「乾めんなら、一束残つとるでえー」と言うと、「それでええよ。すぐ作ろう」と、二人が手際よく「うどん」作りを始めた。



二十分過ぎた頃でだろうか、だし汁も出来上がり、「さるうどん」ではなく、金ざるにうどんを入れただけの「金ざるうどん」。「先生も食べんと、喉に詰まるけん、一緒に食べよう」と言うので、三人で「おいしいのー」と言いながら、夜食にしました。

最後の一口を食べようとした時、ガラス戸が開き、乗兼さんが入って来ました。

「おい！何を食べようるんなー、わしにも食べさせてくれー」と言うのですが、全部平らげてしまった後でした。

しかし、なによりも先ず本人の不幸にもめげない強い意志が有ったればこそ今日であろう。

健康者でもなかなかし得ない報恩の行為に接して、家族の喜びが大きいことは察して余り有るが、さらに、陰に陽に支援された学級や学校関係者もこの話を聞かれて、その後の彼の頑張りにも惜しみない拍手を送られたことであろう。

しかし、吹きつける世間の風は、一向に向上かぬ現今の経済状況の下にあつては、なおさら冷え込むことも予想される。今後、この青年の不屈の努力を期待し、彼の上に幸多かれと祈るばかりである。

風よ風よ  
心して吹け  
この下に  
孝行息子の  
御座候ぞ



隨筆

## また失敗

中之町 河野 強



我が家の家庭菜園は、天候にマツチしたのか、有機肥料の牛肥を使用したのが良かったのか無農薬なのに良く出来た。

トマトも順調に伸び、四段目で実がなり今五段目に花が咲いているので芯止め目。ミニトマトも青い数珠球みたいな実が数段垂れ下がっている。

他の家には、トマトへ屋根を作っておられるが、横着な私はやっていない。

キュウリは節なりキュウリで、これまた無数になり垂れ下がっ

「乗兼さん、残念でした。完売です」と梶谷さんが言ったので大笑い。「お前らだけ食べて！食べ物への恨みは怖いからのー」と言うので、また大笑い。

梶谷さんが、「乗兼さん！何か用事でも？」と尋ねると「そうそう忘れていた。先生、すみませんが、めぐり(演目表)を書いてください」と言う。

私は習字が苦手なので、「だめだ」と断りました。

「明日まではどうしても準備せねばならぬので、何とかしてえや」と言うので、「いや」と言ったら、黙って聞いていた梶谷さんが「先生！習字を教えてくださいませんか書いてあげんさい！」と応援団に早変わり。

「うん、ご馳走したの、裏切るんかあー」と私が言うとうわらわら、深青年団員だから「うー」といい、また大笑い。

下手な字で、めぐりを書き上げましたが、芝居当日は日曜日だったので、私は一度も芝居を観ていません。

今思うと、とても残念だったという気がしています。

ている。棒杭をカケの字に立て、それにキュウリネットをかけ蔓を登らせているが、なかなか思うようにいかず、手をかけて蔓を誘導してやる。

ナスはなんたることか、葉にテントウムシダマシの幼虫が付着、手で幼虫をつぶしているが大分アミに付いた。でも、よくナスの実はなっている。

昔から「年青りの言うこととナスビの花は千に一つの花だが、確実な実がなるのは不思議だ。メロンを二本と西瓜を八本植えたが、半夏生になっても、まだ二個しかならない。メロンも結果しない。

降り続く梅雨の雨に交配せず、蔓だけ伸び駄目。自然農業はやっぱりむずかしい。

農政で減反を強いられた転作した田圃四アール。道路はたなで、道行く人々の注目の的だ。「肥料は何やとってん、よう出来てから」と、と笑顔で声をかけて行かれる。

グラジオラスを三五〇本植えたのが、これは奇麗に咲き出した。

問題はアスターだ。三〇〇本の苗を植えたが駄目。とうとう四〇本しか残らない。害虫を探したが分からぬ。おそらく夜盗虫かも知れない。

原因が掴めないで打つ手がな。今度はハクサップ殺虫剤をやってみよう。何の知識もなければ何でも出来る、ただ植えとけば失敗のものさうだ。

何によらず、事前に研究と勉強がいるものだ、このたび程知識の必要性を嫌という程知らされたことはない。

思わぬ家庭菜園の失敗談である。

# 私の地球サミット(5)

中組 安藤 志保



## 《アフリカの人々》

サミットのNGO会場で、十回のサイドイベント(講演会や分科会等)を主催しました。会場内ではたくさんの方のサイドイベントが同時に行なわれており、参加者ゼロ、というものもかなりあったようです。私たちは、世界の現状、その根本原因、その解決方法の提案を、できる限り多くの人に伝えたいと思いついた。PRを行ないました。

その一つが、会場内でのスピーチです。着物の人、みんな思っている衣装の百人。パレートの前に集まっている私たちを見て、「パレードするの？！一緒に歩きたい！！」と飛び入り参加してくれた南アフリカの人。そして、パレードが始まると、たくさんの方が一緒に歩いてくれたり、まわりから笑顔で手を振ってくれたり、イベントの説明・声掛けにも、本当に熱心に耳を傾けてくれてくれました。そしてパレードの最後は、広場で「よさこい」テンポのいい「よさこい」の音頭で、国も民族も違わなく皆さんの人が集まって、数百人が一緒に踊りました。それも、フリが分らない、とか、できない、とかでなくて、「踊りたいから踊る」「楽しそうだから踊る」とか、とてもシンプルに、感じたまに体が動く、という印象でした。

これは、講演会などの時にも、移動してつめてもらえませんか？と一言声を掛けると、みんなすつと、動いてくれます。日本では、なかなかこうはいかないなあ、と感心しました。

こんな「行動エネルギー」が、不可能と言われた「アパルトヘイト廃止」の実現につながったのかも知れません。今回のサミット開催地に選ばれたのも、その「南アフリカの持つ可能性」がひとつの理由であったようです。

「やってみたいけど、どうしよう。・・・恥ずかしい。・・・」とためらうことの多い私ですが、「やりたいことをやる」人たちの魅力に惹かれました。

ところで、私たちのサイドイベントへの参加者は、・・・？なんと！延べ千五百人の方に参加いただきました。多くの賛同を得て、そのネットワークは世界中にどんと広がっています！

来年は、来年こそその計画はよいが、自然には勝てず、また何をやっても思うようにならない毎年が一年生百姓、全くつら